

# つながりの学校「FLAT」通信 VOL.2

## 発明家の発想でアイデアを生む方法！

11/14に第2回目を開催。

今回のテーマは、アイデアを生む方法。

通常、いいアイデアを1人で生むことは難しいです。

そのため、一般的には多くの人が集まり、考えをつなぐことで、ワクワクするアイデアが生まれます。今回も大切なことは、相手を尊重する「対話」の考え方。



### 常識を疑う「本当にそうなのか？」

考える上で、まずは世の中の常識を疑うことが大切です。

例えば、サンタクロースの服の色の話。

「サンタさんの服の色は？」と聞かれたら、私たちは何も疑わずに「赤色」と答えます。しかしこれは、某飲料メーカーがクリスマス商戦で、企業カラーの赤を広告したことでの根付いたイメージと言われています。赤が常識になっていますが、本来は緑色もあれば茶色もある。これは、常識が正しいかどうかは分からぬ一つの例です。世の中には他にも同じことがたくさん溢れています。

「そもそも、どうして？」、「本当に？」と思いつみることが、アイデアを発想するきっかけになります。

## アイデアの作りかた 3つの方法

- ①問題解決法
- ②水平思考法
- ③組み合わせ法

①は日本人が一般的に得意なもの。例えば、鉛筆が丸で床を転がる。その課題解決のため六角にするなどです。一方、私たちは②、③が比較的苦手としています。

②は、ある分野のものを別の分野に持っていくという考え方。例え話が上手な人はよく使っています。

「国の借金を家計に例える」などがそうですね。

③は、あるものとあるものをつなげる方法。今回の講座で、③を実際に体験して面白さを学びました。この考え方方が習慣になると日常の全てがアイデアの種になります。

### 【担当が感じたポイント】

なぜ、多様性が大切なのか。それはアイデア（考え）が広がるため。

組み合わせ法をやる中で、なるべく遠くて異なる考えが混ざったほうが面白かったです。年齢や職業、住む場所が異なると出てくる考えもさまざま。考えが多様なほどアイデアが膨らみ、それはまちづくりや普段の仕事でも同じです。多様な視点、大切にしたいですね。



### コップ半分の水を見てどう思う？



「半分も入っている？」  
or  
「半分しか入っていない？」

コップ半分、水が入っている状態。同じものを見ても人によって捉え方が異なります。私たちは、事実に自分の価値観を上乗せて物事を捉えています。相手の考えと異なるとき、「なぜ、と思うの？」と問い合わせ、相手の考え方の背景を知ろうとすることが大切です。

### 実際にやってみた「組み合わせ法」

#### 【やり方】

- ①5人ほど集まる。(多いほうがいい)
- ②付箋に質問の答を書く。(例:好きなもの、行った場所等)
- ③似てないけど、近づいたら面白いものを直感で近づける。
- ④近づいたものに意味づけをする。

例えば、「サウナ」「ドライブ」「バス」など関係ない事柄。そこから、「サウナツアーinバス」(バス自体がサウナ!)というアイデアが!



【編集・担当】  
地域振興課自治振興係  
渡邊 直也